

無言燈

MUJINTO

No.144

2019

特集

● 輝く 同窓生
● 大谷大学と私

木村 宣彰 名誉教授
NPO法人の理事長、
代表として活躍する同窓生が対談



大谷大学同窓会

マツオ ヒロヒサ

松尾 浩久さん

〈NPO法人HEROES 理事長〉
(2000年度・文学部社会学科卒)

ミノベ ヒロミチ

美濃部 裕道さん

〈NPO法人CILだんない 代表〉
(2009年度・文学部社会学科卒)

インタビュー
無盡燈編集委員
西本祐攝 (大谷大学講師〈真宗学〉)



役に立つ、立たないという社会の尺度を超えて、 その人がその人らしくまっすぐ道を歩んでいける社会を実現していく

西本 今回の「輝く 同窓生」では、「NPO法人CILだんない」(滋賀県長浜市)を会場に、NPO法人を立ち上げて活躍されている2名の同窓生のお話を伺いたと思います。おひとりが松尾浩久さんです。「NPO法人HEROES」の理事長をお務めになっておられます。もうおひとりが美濃部裕道さんです。「NPO法人CILだんない」の代表をお務めになっておられます。お二人に、学生時代や現在のNPO法人での活動などをお聞かせいただきたいと思います。

松尾 私は大谷大学(以下、谷大)文学部社会学科で4年間学びました。当時は介護保険が始まる直前で、介護福祉士資格などがとても盛りあがっていたように思います。谷大では、各地方から集まってきた学生たちと交流ができたこともあり、「人との関係」について非常に興味を持っていました。また、サークルではボランティア研究会(以下、ボラ研)に所属し、そこでボランティア活動に携わらせていただいたことも、現在の活動のきっかけになっていると思います。ボラ研では、聴覚障がいのある子どもたちの居場所作りをする活動だったのですが、それまで障がいのある方と接する機会は少なかったため、すごく衝撃を受けました。それと同時に、障がいがあることは特別なことではないと感じ、ギャップがあるようでギャップがない…みたいな違和感を持ちながら活動をしていたと思います。



松尾 浩久さん

毎週、火曜・金曜にミーティング、そして土曜に、聴覚障がいのある子どもたちと地域の子もたちが交流するための支援をしていました。

西本 私も実は同じボラ研OBなのでよく知っているのですが、松尾さんは部長の重責も担われましたよね。実際サー



クルを取りまとめていく中で学ばれたことはありますか。

松尾 学んだことは多いです。当時、部員数は50人程で、出身地や年齢や性格も様々な中、どのように組織を運営していくかを経験できたことはとても勉強になりました。当時は必死で、「やらなければ!」という思いが強かったと思います。

西本 責任の重い立場で、後輩からも頼られていましたよね。学外でも活動されていたかと思います。

松尾 学生時代は、聴覚障がいのある方が入所されている施設で宿直のアルバイトをしていました。また、第4学年以降は地域の学童ク



美濃部 裕道さん

ラブのボランティアや、知的障がいのある方の余暇を支援するボランティアにも参加させていただきました。

西本 次に美濃部さんの学生時代の様子や、授業・クラブ活動等についてお聞かせください。

美濃部 私は、自分の障がいについて知りたい…というか、自分の障がい何なのか、どこに問題があるのかという点に以前より興味があり、谷大の社会学科社会福祉学コースに進学しました。大学進学前に通っていた養護学校の高等部時代、筋ジストロフィーの障がいがある同級生と共に福祉を学んで「将来何かやりたい」と夢を共有したのも進学理由の一つです。



谷大で福祉を学ぶ中で、「仏教・真宗の教え」と「障がい者の生活のあり方」についてより深く学んでみたいという思いがあり、私と同じように障がいのある方々との勉強会を開くことで、色々な障がいの考え方や、真宗の教えを通して、生きにくい障がい者の生活をどう捉えるかを考えることができました。

また、「人間学」や真宗・仏教の教えの授業の中で、西本先生の授業も受講させていただき、より様々な学びを深めていくことができました。

西本 私が教員になりたての頃の授業を苦勞して聞いていただいていたのかな。仏教や真宗の視点からこういうことが学べたということがありましたら教えてくださいませんか。



西本 祐編編集委員

美濃部 それまでは、障がいは「持つてはいけないもの」とか、「無かったら良い」という思いがありました。でも「真宗学」や「人間学」の学びを通して、障がいは「持つていてもいい」のではないかと、逆にそれをどのように社会の中で、自分として表現していけるかという

考え方に、シフトチェンジできた気がします。

西本 ご卒業後、お二人ともNPO法人を立ち上げられましたが、その経緯や、どういう願いを持って踏み出されたのかをお聞かせください。

松尾 卒業後、社会福祉法人に入職したのですが、学生時代にボランティアをしていたご縁もあり、知的障がいのある方の支援に十数年携わらせていただきました。そこでは、突然大声をあげるなど、行動に派手さがあり、対応が難しい方を支援させていただくことが多かったです。プロの支援者でも関わり方が難しい方々に、社会的に支援する場を一つでも増やしたいという思いでNPO法人を立ち上げました。

「NPO法人HEROES」という名称ですが、“HERO”自体は「主人公」というような意味合いで、「利用者」を指しています。障がいのある方一人ひとりに人生があるの

で、その人生をその人らしく過ごしていくために、私たちは脇役となって舞台を整え、彩っていくことができたらいいなと思っています。ただその反面、私にも私の人生があり、時には彼らに私の人生を彩ってくれる脇役に入っていただきたいな、という相互性みたいなものを大事にしたいと思っているので、“HEROES”という複数形にしています。

美濃部 立ち上げの理由は、この地域で居宅サービスがほとんど無かったためです。京都であれば何十社というなかから、居宅サービスを選べるのに対し、この地域は田舎なので数えるほどしかなく、しかも高齢者向けのサービスをしているところがほとんどでした。先ほど松尾さんが「主人公」とおっしゃいましたが、このままでは私たちが自分の人生を自分らしく歩んでいけないということで自らが立ち上げました。ちなみに、先ほど養護学校での同級生の話をしましたが、今も彼と一緒に活動しています。

名前の「だんない」には二つの意味があります。この辺りの方言で、何か心配ごとがあっても「だんないで(=大丈夫)」という言葉で励まし合うことと、「段がない社会」、つまりバリアフリーですが、物理的なバリアだけではなく、人の心と心との関わり方の壁をも取っ払いたいという思いで「だんない」という名称にしました。

西本 NPO法人を實際運営されていく上での苦勞や工夫されていることを教えてください。

松尾 NPOですので、地域の方々の支えがないと法人として成り立っていきません。そういう意味では協力者がいるのはすごく励みになっているなど日々感じています。ただ、想いを持って法人を立ち上げたのですが、理想と現実が常に表裏で、理想通りではないことの方が多いです。理想と現実とのズレを感じ続けていると、しんどいなと思うときがあります。そんな時、周りで支えてくださっている方々が本当に手を差し伸べてくださるので、まだ6年目ですが、何とかやってこられたと思います。

美濃部 先に述べた地域的なことに加え、目的や理念はもとより、職員や利用者を地域の方々にどう浸透させていくかに苦勞しています。

また「だんない」には、「重度障がい者の自立生活を保



障させること。」「社会モデルの考え方に変革していくこと。)(※社会モデル=障がいは個人の責任ではなく、社会が作り出す障壁に問題があること)、「地域とのネットワークをつくること。」という三つの理念があるのですが、この理念をどのように具現化し、メンバーが共通理解していくかが課題です。

西本 活動していく中で、大学での学びが生きているなと感じたことはありますか。

松尾 本当に多くのことを学べる場所でした。当時の谷大のキャッチコピーが「人間が大好きです。」だったのですが、いいキャッチフレーズだなと思っていました。人とどう向き合うのかであったり、人をどう許すのかであったり、あと自分自身がどう生きるのかみたいなことを、当時はそんなことまで思っていたわけではないのですが、何か自問自答できる機会を得られる場であったと思います。

美濃部 私が入学した当時は、木村宣彰先生が学長だったのですが、入学式の挨拶の中で「大谷大学は役に立つ人材は作らない。役に立つ、立たないを超えて一筋の道に生きる人間を作る、育てる」、「夏炉冬扇」というように、一見役に立たないようでも一筋に歩み続けられる「自己の信念の確立」、自分の思いを一筋に突き進む大事さというか、社会でどう役に立つかよりも、人間として自分がどう信念を持って生きるかということが大事だとおっしゃったことに感銘を受けて「これだ!」と、今も谷大で学んだこととして大事にしています。

西本 実際の活動ではなかなか難しい面もあるとお聞かせいただきましたが、それぞれ今後どのように発展させていきたいとお考えでしょうか。

松尾 実は、発展させたい気持ちと反して、発展しない方が良いのではないかという気持ちもあります。というもの、社会が変われば障がいのある方が生きやすくなる、社会が適切な方向に変われば障壁というものはないという考え方があり、要は、福祉の仕事が成り立っている状況が社会としてどうなのかという思いがどこかにあるのです。だから発展していいのかみたいな…。しかし、私たちにできることとして、自閉症や発達障がいのある方の理解を広く進めていくことや、啓発していくところには力を入れたいと考えています。

美濃部 私も松尾さんのお話は了解していて、障がい者の中には、やはり東京や大阪に移住したほうが生きやすいので引越すればいいという方や、ここに生まれたので施設に入ればいいという諦めを持つ方もいます。そういう方をなくすために「社会を変えていく」という思いで、諦めずに信念を持って「だんない」を発展させていきたいと考えています。

西本 松尾さんは京都の西陣を拠点に活動されていますが、西陣を拠点に選ばれた理由、また、活動の中でビール製造をされていますが、なぜビールを製造するよう



になったのかということをお話いただけますか。

松尾 先ほど美濃部さんのお話にもありましたが、都会にはいろいろなものがあって田舎にはないということですが、都会には都会の生き辛さがあると思います。前職の時、都会での生き辛さを感じている人を目の当たりにした経験があり、その目の前にいる人に手を差し伸べないといけないと思ったのが大きなきっかけです。

私たちのNPO法人は、主たる対象を成人期(20代~30代)で障がいのある方としており、働く場の提供としてビールを製造しています。同じような事業所としてパンやクッキーを販売されている所を見かけることがあると思うのですが、それらと同じく障がいのある方の仕事を生み出すためにビールを製造しようと思いました。

西本 施設の利用者の方の雇用・仕事を生み出すということで着想されたということですね。それともう一つ、農福連携事業にも取り組んでおられるということなのですが、その動機や今後の目標についてお聞かせください。

松尾 ビール造りでは、重度の知的障がいがある方にビールのラベルを貼っていただいたり、中には醸造過程にがんばって取り組んでいただいている方もおられます。ビールの原材料は、今はほぼ100%海外産ですが、現在、社会的に国産化への期待が高まっています。なかなか担い手の農家さんがいない状況ですが、農家と福祉事業者が協力し合い、人材不足のところに障がいのある方がどんどん入って行って、国産のものを造っていきこうという取り組みが始まりつつあります。私たちも昨年の秋に、原材料から醸造販売まで福祉事業所がすべて関わって「ふぞろいの麦たち」というビールを完成しました。今後は、この農福連携の取組みを地産地消として、さらに充実させていくことが目標です。

西本 美濃部さんは長浜のご出身ですけれども、ここで活動を始められた理由や、この地だからこそできることなどがあれば教えてください。



美濃部 滋賀県の湖北地域では、宗教の信仰の篤さや伝統文化の深さがあるのですが、それに加えて、「社会モデル」の革新的な、先進的な考え方を取り込むことで、障がい者と健常者が共生できる新しいあり方が生まれるのではないかと私は考えています。そういう新しいあり方を地域規模で発信していくことで、他の地域も良くなるといいなと思っています。



西本 歴史的にも蓮如上人との関わりが深い地で、真宗の信仰が篤いところですし、長浜の地ならではの人と人とのつながりの深い所であるとか、そういうところで広がりをもって活動していきたいということですね。「だんだい」では、居宅介護事業「さざなみ」も運営されていますが、この運営について教えてください。

美濃部 「さざなみ」は障がい者福祉サービスの一つとして、居宅介護事業をしています。重度障がいのある方の居宅訪問サービスです。24時間介護を必要とする利用者もいますので、人材不足という問題に直面しており、地域に大学もないので若い人を呼び込みにくい状況です。ただ、私たちの人生をサポートするためには必要なことなので、ぜひ谷大からもスタッフとして来ていただけるとありがたいと思っています。

西本 ありがとうございました。最後に、今日お互い

のお話を聞かれたところで感想などを一言ずついただければと思います。

松尾 私たちは京都市内で事業をさせていただいており、都会という点では便利なのですが、やはり少し堅苦しさを、のびのびしていないところがあるので、長浜に遊びに来られたらと思います。「だんだい」で民泊などをしていただけましたら嬉しいなと思うのですが、やってくれませんか？

美濃部 はい、考えます。この奥に泊まれる施設があるので、いつでも来てください。その時にはこのビールを飲んで。

松尾 そのときにはビールサーバーを背負って、美濃部さんのところでビアガーデンをしましょう！そこへ現役の谷大生に来てもらうのも良いですね。一度そういう会を開きたいです。

西本 楽しそうですね。美濃部さんいかがですか。

美濃部 私もこの機会をいただいて谷大の同窓生同士、同じような取り組みをされておられることにうれしく思いましたし、「だんだい」は将来的に居酒屋みたいなことをしたいなと頭の片隅にあるので、そのときにはぜひこのビールを置かせていただけるとありがたいです。

松尾 いいですね。もう専属で置かせてもらいます。ありがとうございます。


西本 今回は、お二人の方のたいへん貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。今、大谷大学は、「Be Real-寄りそう知性」という新しいメッセージを打ち出しています。一人ひとりの人間の現場や社会の問題に足場をおいて、本当に学ぶべきことは何かということを考えていく大学でありたいと、そして、決して一人の人も見捨てることなく寄りそっていく人になってほしいという願いがこめられています。そのメッセージにも通じることを、すでに実践されているのだなということをお二人のお話から聞かせていただきました。今後とも、松尾さん、美濃部さんの活動を応援しております。本日は、本当にありがとうございました。

■ NPO法人CILだんだい
(2010年12月3日設立)

滋賀県長浜市木之本町千田681-4
☎0749-50-3639
ホームページ <http://cil-dannai.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/cildannai/>

主な事業内容 CIL(自立生活センター)、居宅介護事業「さざなみ」の運営、自立生活体験室の運営、ピア・カウンセリング事業、障害観変革(講演等)事業等、広報誌「だんだいの道」発行

沿革
2010年 8月 10名の方々に賛同をいただき、NPO法人設立総会を開催。
12月 「NPO法人CILだんだい」として認証
2011年 4月 事務所のバリアフリー工事が完了し、居宅介護・重度訪問介護事業所を開所
2013年 4月 湖北自立生活塾を開催(自立支援協議会と共催)
2014年 11月 第1回だんだい祭り開催(以降、毎年開催)
2015年 8月 第1回だんだいちよこっと祭り(こどもまつり)開催(以降、毎年開催)
2018年 6月 新事務所開設




■ NPO法人HEROES
(2013年10月15日設立)

京都市上京区堅門前町414
西陣産業会館115
☎075-366-3627
ホームページ <https://www.762npj.jp/>

主な事業内容 就労・福祉就労・日中通所施設・ヘルパーの派遣、西陣麦酒醸造所運営

沿革
2013年 10月 特定非営利活動法人HEROES設立
2014年 1月 デイセンター HEROES(生活介護)開設
2017年 3月 ヘルパー派遣HEROES(居宅、行動、重訪、移動)開設
10月 西陣麦酒醸造所(生活介護の授産科目)
2019年 3月 京都式農福連携助成金報告会を開催

西陣麦酒オンラインショップはこちらから
→ <https://bakushu.base.shop/>





同窓会支部だより



京都支部の新たな挑戦

京都支部長 福永 莊三

2016年より同窓会本部の承諾を得て、新同窓生に所属支部名をよりわかりやすくする為に「山城支部」から「京都支部」へと支部名称変更を行いました。京都支部は全国80支部の中でも最大の支部であり、現在9,000名を超える会員を有します。しかしながら積極的な活動も出来ず、支部予算の中で支部全会員に支部総会や公開講演会(旧：夏季八十講)のご案内も出来ない状況が続いておりましたため参加者も少なく、これからの運営をどのように改善し変えていくのか、新しい幹部組織体制のもと、新たな挑戦をはじめました。

昨年は「無盡燈」に支部案内を同封することができ、公開講演会は、一般市民だけでなく高校生にも参加してもらうために、オープンキャンパスの日程に合わせて開催し、支部総会は、京都支部会員が多く参加するホームカミングデー開催日の午前中に大学内で行いました。ホームカミングデーに合わせ、京都支部を広く広報するために、支部の幟を制作し、学園祭期間に「京都支部コーナー」を設けました。学園祭1日目には、慶聞館にてお飲み物とプチシュークリーム[※]の無料配布(先着200名)を行い、支部活動のアンケートにお

答えいただきました。2日目にはオリジナル念珠づくり体験コーナーを設け、学園祭に訪れる多くの皆さんに参加して頂き、京都支部の活動を知っていただくことができました。

また、昨年8月25日(土)に東本願寺前緑地帯を会場に開催された「京都 食とアートのマーケット in 東本願寺 2018」に大谷大学同窓会京都支部ブースを出展しました。今回のブースでは、オリジナル念珠づくり体験と、児童文化研究会の学生に協力していただき人形劇・パネルシアターの公演を行いました。念珠づくり体験は、支部役員のほか、中央執行委員会を中心とする有志の在学生12名に協力していただき開催しました。学生たちは、事前に支部役員から念珠の作り方や子どもたちへの接し方についての指導を受け、当日は教わったことを活かして、子どもたちと楽しそうに念珠づくりを行っていました。また、人形劇・パネルシアターは、開演すると、たくさん子どもたちが集まり、楽しんでいただきました。

まずは、「同窓会京都支部」という存在を知っていただくためにも、いろんな手法を考え、広く広報することから挑戦を始めています。



函館支部の取り組みと課題

函館支部事務局 田中 彰祐

函館支部は、北海道の南に位置し、渡島・檜山両支庁の地域となり、「面積」としては神奈川県、東京都を合わせたよりも大きい範囲となっています。

2010年より支部長の黒崎昭明と、事務局である私、そして約90名の会員の皆様と共に活動しています。

函館支部の活動内容は、「夏季八十講(2019年度より大谷大学公開講演会に名称変更)」や「函館支部総会」、「函館オール京都・大学同窓会(以下オール京都)」の開催ならびに運営・参加です。

この「オール京都」という会は、今から32年前に結成され

京都大学・同志社大学・京都女子大学・京都産業大学・立命館大学・大谷大学の函館出身同窓生により、2年ごとに各大学が当番校として様々な催しを企画し他大学の方々との親睦を深める集まりです。当同窓会支部も4年前に当番校となり、同窓生はもちろん関連学校である函館大谷短期大学の皆様にも協力頂き、参加者約100名の会を開催することが出来ました。

大谷大学同窓会函館支部事務局として9年間携わり思うことは、会員の約半数が寺院関係者であることから「夏季八十講」の開催がお盆の期間と重なり参加者が少ないという点です。ここ数年は決まった寺院にてお講と同時開催という形で動員をかけているのが現状であり、当支部においては時期等など見直さなければならない状況となっています。

また、2019年10月は札幌において「大谷大学フェア(北海道)」が開催予定です。函館支部としまして一人でも多くの方が大谷大学に興味を持って頂くよう関係各所と連携し、どのような形でPR活動を行うかも課題の一つです。

支部長・事務局交代(同窓会本部 2019年4月1日現在掌握分)

〈上越支部長〉山崎 義文 (前支部長 滋野 憲雄)	〈大垣支部長〉里雄 康意 (前支部長 太宰 行信)	〈湖東支部長〉深尾 浄信 (前支部長 寺谷 覚栄)	〈和歌山支部長〉太田 正史 (前支部長 鈴木 教雄)
〈尾張学友会支部長〉川口 賢司 (前支部長 一柳 啓史)	〈小松支部長〉柿原 勸 (前支部長 能邨 勇樹)	〈阪神支部長〉志紀 正機 (前支部長 春日 興良)	〈長崎支部長〉大内 正則 (前支部長 藤井 理統)

同窓通信

青木馨氏博士(文学)学位を授与

2018年3月23日同窓生青木馨氏が「本願寺教団展開の基礎的研究—戦国期から近世へ—」で大谷大学より博士(文学)の学位を授与され、同名書として法藏館より公刊された。

青木氏は、大谷大学文学部史学科日本仏教史分野を卒業後、同大学院修士課程仏教文化専攻に進学、修了された。その後、自坊の法務をつとめながら、同朋大学仏教文化研究所客員所員などをつとめ、真宗史研究を今日まで深められた。その長年の研究成果をまとめられたのが今般の博士学位請求論文である。

本論文は、愛知県の三河地域を中心に本願寺教団の戦国期から近世への展開を、本寺本願寺の社会的身分上昇の問題と、



その地域寺院や道場への展開としてとらえようとしたものである。また本願寺教団の展開にあたり、身分獲得の動きと運動して由緒書が創成されたというユニークな視点を取り、高い独自性をもつ論文でもある。

内容の詳細は省くが、第I編「三河における地域道場から教団への展開」、第II編「本願寺門主制と近世の末寺身分」、

第III編「本願寺下付物と墨書名号」に序論・補論・総論・結語が配されている。

学術的にすぐれた点が多いが、顕著なものを示すと、まず、当該地域の精力的な寺院調査により発見、収集された本尊裏書や古文書をもとに、三河本願寺教団の実態解明が相当進められたことである。次いで歴史学分野ではあまり取り上げられていない真宗の装束を分析し、真宗史研究に新たな観点を開いた。また願力寺文書の分析は、近世において本願寺末寺院が行った寺格上昇のための由緒・伝承創成の事実を明らかにし、本願寺末寺調査で多く見られる由緒書の歴史的価値に新しい視点を見出した。そして墨書の六字名号の分類と筆者の推定は、末寺調査で散見する墨書名号の筆者推定のメルクマールであり、その業績は大きい。現に青木氏の名号分類は既に社会的に広く認められ、本願寺末寺院調査に度々援用されている。

以上のように本論文の学術的価値はきわめて高く、今後の真宗史研究において必読書となることは間違いないといえる。
(大谷大学教授 宮崎 健司)

青木 馨氏

1979年3月 大谷大学大学院修士課程文学研究科仏教文化専攻修了
2018年3月 大谷大学博士(文学)学位取得

本来、同窓会報『無盡燈』143号(2018年9月発行)にてお知らせすべき内容ですが、前号において掲載漏れがございました。青木馨氏をはじめご関係の皆さま方に大変ご迷惑をおかけいたしました。なお、本文につきましては、副査を担当されました宮崎教授に執筆いただきました。



お蔭様

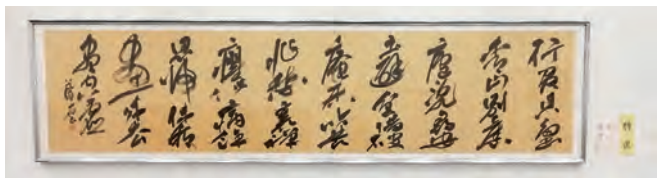
岡本 了壽(藍石)

私が書道部に入部したのは、2回生の時でした。当時は40名位の部員数だったと思います。

先輩の佐々木宏遠先生に御指導を頂き、初めて半切作品を書き、学内展に出品しました。その後、周囲の先輩方のお誘いで3回生の冬に古谷蒼韻先生に入門し、4回生の時には書道展や日展に初出品しました。「出品する事が勉強」と言われ、以降毎年日展に出品しています。初入選は1985(昭和60)年で、大変嬉しかった事を覚えています。それから時は流れ、2016(平成28)年に初めての「特選」を受賞いたしました際には、作品に責任を持つ事の重要性をひしひしと感じました。その頃はまだ会社勤めでしたから、早朝4時から6時までが書の勉強時間でした。夜に書作をすると気が高ぶり眠れないため、先生の助言を頂き出勤前に書く事が習慣でした。

そして2018(平成30)年の「改組 新 第5回日展」では、再度の「特選」という栄誉を賜りました。

この時は9月の締め切りに向けて、4月初旬から検討を始め、唐代の僧の懷素の自叙帖を基とした行草体で書こうと決



めました。漢詩を題材とし、そこから3~4首を選文して、横へ展開していきます。また、作品は起承転結を意識したことが見える様に工夫しています。しかし、もっと大切な事が「気韻生動」です。これは、気持ちが先に動いて、筆がそれに従って動くことです。「意前筆後」も同じでとても難しいのですが、それに加えて鮮度や気迫も大切です。枚数を書くことで鮮度が落ちる為、詩文を変えて書く工夫もしました。

そんなこんなで、9月の末に作品を提出しました。たった一枚を出品する為に長い時間と多くの画仙紙が必要でした。

2018(平成30)年の夏に古谷先生が急逝されたため、受賞のご報告は墓前でした。長年にわたり厳しくも温かい御指導を賜りました古谷先生のお蔭と心より深く感謝申し上げます。そして、励まして頂きました諸先生、諸先輩、友人、

家族にも感謝し、お礼申し上げます。

今後、ご縁を頂戴した方々に感謝しつつ、更に精進し、書に邁進してまいります。有り難うございます。

岡本 了壽(おかもと りょうじゅ)氏

1977年3月 大谷大学文学部真宗学科卒業
1985年 「改組 第17回日展」 / 初入選
2016年 「改組 新 第3回日展」 / 「特選」受賞
2018年 「改組 新 第5回日展」 / 「特選」再受賞
他、多くの賞を受賞。
2018年の「特選」再受賞にあたり、本文を寄稿いただきました。

大谷大学と私



名誉教授
木村 宣彰

私は1962(昭和37)年4月に大谷大学文学部に入学した。この年の流行語は「人づくり」であった。1960(昭和35)年の暮れに成立した池田内閣は国民所得倍増計画を閣議決定し、高度経済成長を国家の政策として推進した。それに呼応して、経済界は直ちに世間で役立つ「人材」を求めている。2年後に開催された東京オリンピックは日本の高度経済成長を象徴するものだった。ところが、大谷大学はこのような社会の動きとは一線を画していた。1962(昭和37)年度の入学宣誓式において曾我量深学長は、87歳の高齢であったが矍鑠として新生に「本学は世間に役立つ人物を育てる」と告示された。そもそも大学は人格形成の学問の場であり、社会の「人材」を育てる前に「人物」の養成こそが大学の使命である。しかも個人がどの大学で如何なる学問を修めるかの選択は自由でなくてはならない。ところが、政府は1979(昭和54)年に国公立大学の入試制度として「共通第一次学力試験」を、更に1990(平成2)年からは「大学入試センター試験」を採用し、これら制度の導入によって恣意的な大学の序列化が進み、大学の学問の伝統が蔑ろにされたようになったと思われる。幸いに私は政府による画一的な入学制度が実施される以前に大谷大学を志望して入学を許された。

現代の日本の大学制度は、教育・研究の両面で数多くの矛盾を孕んでいる。大学の学部教育が果たすべき本来の使命や役割は、リベラル・アーツを中心とした人格形成である。当然、大学の運営に関わる者は、それぞれの大学の歴史と伝統を熟考し、そのうえで自学が果たすべき役割に特段の留意を払わなくてはならないであろう。大学入試センター試験制度がもたらした最大の問題点は「一律」という点にある。大学にはそれぞれ歴史的な使命や伝統的な学風がある。学生はそれを自由に選び、各人が自主的に学問ができるようにしなくてはならないと思う。

私は自分が選んだ大谷大学に学び、多くのよき師・よき先輩・よき友に恵まれた。大谷大学におけるよき師友との出会いが無ければ今日の私はあり得ない。入学と同時に入寮した洗心学寮は人間学の学びの場であった。学寮で寮生として過ごし、後には寮監として数年を過ごしたことは実に得難い体験であった。

1961(昭和36)年には、山口益、舟橋一哉、横超慧日、安藤俊雄の四教授の編になる『仏教学序説』が公刊された。本書は近代仏教学の成果に基づいて「仏教とは何か」を解き明かした名著である。その編者である教授陣の警咳に接したことは本当に有難いことであった。殊に恩師の横超慧日先生からは懇切な指導を忝くしたことは感謝に絶えない。

また、在学中に鈴木大拙先生の講義を拝聴できたことは忘れられない。鈴木大拙に同行された岡村美穂子さんとは、その折にある用事を通じて拝眉の機会を得た。詰襟の学生服で岡村さんを訪ねると、「何を勉強なさっているの？」と声をかけてくださった。半世紀を経た今、金沢市にある鈴木大拙館の岡村名誉館長の下で鈴木大拙に関わる仕事をさせていただいている。奇しき因縁という他ない。大谷大学から被った御恩は数限りない。

大谷大学は、仏教系大学としての矜持と建学の精神を堅持し、今現在とこれから大谷大学に学ぶ学生たちに常に希望を与える存在であり続けていただきたい。

略歴紹介

木村 宣彰 名誉教授

1943年11月 富山県に生まれる
1966年3月 大谷大学文学部卒業(仏教学)
1969年3月 大谷大学大学院修士課程修了(仏教学)
1973年3月 大谷大学大学院博士課程満期退学(仏教学)
1980年4月 大谷大学講師
1989年4月 大谷大学助教授
1992年10月～1994年9月 大谷大学図書館長
1994年4月 大谷大学教授
1996年10月～1998年3月 大谷大学図書館長
1998年4月～2000年3月 大谷大学学監・文学部長
2004年4月～2010年3月 大谷大学長兼大谷大学短期大学部学長
2010年4月 大谷大学名誉教授
2013年4月 金沢文化振興財団鈴木大拙館館長(現在に至る)

同窓会役員

1998年5月～2000年5月 大谷大学同窓会常務理事
2002年5月～2004年4月 大谷大学同窓会常務理事
2004年4月～2010年3月 大谷大学同窓会顧問

【専門】 仏教学

【著書・論文】

『中国仏教思想研究』(法蔵館)

『仏教思想の奔流

—インドから中国・東南アジアへ—』(共著・自照社出版)

『注維摩経序説』(東本願寺出版部)

『浄土思想系譜全書 安楽集』上・下(四季社)

『五濁の時代に 念仏の導きを』上・中・下(北日本新聞社)

『安楽集講要』(東本願寺出版部)

など

大谷大学に学んで今思うこと

大谷大学教授(仏教学) 織田 顕祐



私は学生番号が732-20番だったから、1973(昭和48)年の仏教学科の入学である。不遜な気持ちで入学した私は、入学すると直ちに大谷大学の学風にこっぴどく頭を叩かれた。当時受けたショックは今でもはっきりと覚えているが、私がかつて触れたことのないもの、今思えばそれは「仏法」というものであった。そのショックの意味がわかりたくて、今日まで引き続き大谷大学で学ぶことになったのだと思う。

学内にいるとそれほどでもないが、日本の学会で他の研究者と交流している時、さらに外国で仏教について意見交換をしている時などに、大谷大学の学風の特徴をはっきりと自覚することが多い。かいつまんで結論のみを言うなら、それは三代学長の佐々木月樵によって構想され、それを受けつぎさらに発展していかれた先輩たちによって構築された仏教・真宗学の方法論である。それは『樹立の精神』に明確に示されているが、入学当時の私にはなんのこともかさっぱりわからなかった。それから数十年経って、佐々木が掲げた「ありのままの仏教經典そのものの本義に味到する」仏教学や、佐々木の盟友であった金子大築が示した「親鸞聖人の学び方を学ぶのが真宗学である」という真宗学の視点がいかに大切なものであるかについて少しだけ頷くことができたように思う。

こうした点から改めて、私たちが学んできた東アジアの仏教や、日本の仏教などを振り返ってみると、再点検しなければならない点が多いように思う。例えば、私は最近ベトナムの人たちと交流する機会が多いが、ベトナムは日本よりも相当早く仏教に触れたようである。その上でベトナムと日本の仏教受容の歴史を比べてみると全く異なっている。日本に土着した仏教は一体どのような理由でその後の日本の仏教となり、ベトナムとは全く違った成果を得たのか。こうした点に無知なままでは日本の仏教を真に理解したことにならないし、東アジアの仏教を語ることもできないであろう。

現役教員からのお便り

変わった！ 大谷大学教授(真宗学・真宗保育／幼児教育学) 富岡 量秀



卒業生が仕事帰りや、世間では祝日ですが大学は授業実施日などによく遊びに来てくれます。その時に、最近よく聞く言葉は、「変わった！」という驚きの声です。慶聞館ができたことは大きいと思いますが、学食も変わったし、マークも変わったりしました。色々目に見えて「変わった！」と感じているでしょう。

また学部編成が大きく変わったのも卒業生には大きな変化だと思います。文学部、社会学部、教育学部という3学部体制になったことは、本当に大きな「変わった！」と感ずることだと思います。

卒業生と出会い、話しをしていて感じることは、みんなにとって大学のキャンパスは、とても大切な場所だったんだということです。「変わった！」大学に出会った時、驚きと同時にちょっと淋しい気持ちになったりしています。しかしこの「変わった！」は大谷大学が、より大谷大学らしくあるために「変わった！」んです。「らしくある」ということは変わらないということではありません。それは私たち自身も同じです。「自分らしくある」ために変わり続けていくんだと思います。

みなさんも大学に遊びに来て、素敵に「変わった！」姿を見せてくださいね。ちなみに私は髪の毛が白く、お腹がポッコリとしてきた「変わった！」姿をお見せできます♪

大谷大学下宿紹介業務委託会社

株式会社 **フラットエージェンシー**

- 賃貸 ■ 不動産売買 ■ 管理 ■ 新築・リフォーム
- ホテル ■ テナント ■ マンスリー ■ コインパーク

北大路駅前店 〒603-8142 京都市北区小山北上総町43-5

TEL:0120-44-0669

オープンキャンパスの日に北大路駅前店にてお部屋探し相談会開催中！
大谷大学の学生なら この広告を提示で 仲介手数料 40%+税*



*他キャンペーンとの併用は不可です

（たくさんの受賞、認定、感謝状をいただきました）

地域未来牽引企業
— 経済産業省

第2回 これからの1000年を紡ぐ企業
— 京都市

西賀茂のいえ グッドデザイン賞
— 公益財団法人日本デザイン振興会

同期会 OB・OG会 開催報告

2018年7月上旬～2019年4月下旬に行われた各団体の行事を紹介しています。

*詳しくは同窓会ホームページをご覧ください。



<http://www.mujiinto-otani.org/activity/kokuti.html>

2018.09.29

大谷大学弓道部OB・OG会
直心行射会



2018.10.20-21

2008年卒業
宮崎健司ゼミ同期会



2018.09.29

1974年度入寮 第8期
大谷大学自灯学寮同期会



2018.10.24

昭和49年～50年卒業
E.S.S. OB・OG会



2018.07.03-04

昭和41年度入寮
育英学寮同期会



2018.09.09

道交会(柔道部OB・OG会)



2018.10.06

2018年度
卓球部後援会
総会・懇親会・卓球大会



2018.10.27-28

1973年～1979年卒業
漫画研究部 OB・OG会



2018.07.28-29

2007年入寮
貫練学寮同期会



2018.09.15

1982年卒業
文学部社会学科教育学分野
同窓会



2018.10.13

谷雪会 総会
(スキー競技部OB・OG会)



2018.11.14

昭和38年卒業
短期国文科1期生 同窓会



2018.08.18

古田和弘ゼミ同窓会
浄影会



2018.09.29

混声合唱団OB・OG総会



2018.10.19-20

大谷大学男声合唱団
昭和37年～42年卒業
OB会



2018.11.17

平成8年卒業
片野道雄ゼミ 同期会



2018.11.17

1980年入学
1-Fクラス 同期会



2018.12.02

ギター部創部50周年を
記念しての「花祭りの会」
(1期～16期生)



2019.02.09

大谷大学 バドミントン部
OB・OG会



2019.02.23

2016年度卒業文学部
真宗学科
井上尚実ゼミ同期会



2018.11.17

写真部OB・OG会



2018.12.03

1986年3月～1991年3月
修士真宗学専攻修了
寺川俊昭先生ゼミ 同窓会



2019.02.12

藤嶽明信先生最終講義



2019.02.23

2013年卒業
大谷大学短期大学部
仏教科 同窓会



2018.11.17

昭和50年3月卒業
文学部史学科東洋史学同期会
(藤島建樹先生を囲んで)



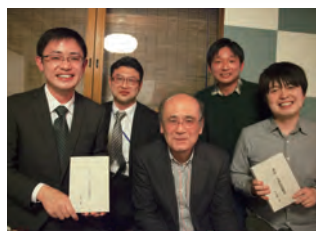
2019.01.12-13

2012年度～2017年度
漫画研究部卒業生 会合



2019.02.13

2013年度
大学院 修士仏教学専攻
宮下晴輝先生ゼミ 同期会



2019.03.02

大谷大学 バドミントン部
OB・OG会



2018.11.17-18

鈴木先生の喜寿と
池上先生のご希を祝う会



2019.02.09

1977年度(昭和52年度)入寮
洗心学寮同期会



2019.02.15

男声合唱団OB会
コールリデンクラブ総会



2019.03.12

安富信哉先生
三回忌の集い



2018.11.23

1997年度入寮 自灯学寮
第31期生 同期会



2019.02.09

上田敏樹先生
最終講義・謝恩会



2019.02.22

ロバート・ローズ先生
退職記念謝恩会



2019.03.23

2013年卒業
小川 健一先生ゼミ
同期会



2019.04.03

1979(昭和54)年卒業
廣瀬果先生ゼミ
同期会(卒業40周年記念)



WEB・SNS開設中!

WEBやSNSでは同窓会の活動や同窓生の活躍、母校「大谷大学」の現況などの情報をタイムリーに発信しています!

<http://www.mujiinto-otani.org/>

大谷大学同窓会



同期会／OB・OG会 開催について

同窓会本部では、以下の取り組みをおこなっています。同期会等を開催される際は、事前にご相談ください。

開催1ヵ月前までに、「同期会 開催届」、「OB・OG会 開催届」をご提出ください。

- ・「同期会」は、その団体の全対象者にご案内されている集まりが対象です。
- ・クラブの「OB・OG会」は、全年度の卒業生にご案内した集まりが対象です。

同窓会本部では、以下のお手伝いをしています。

- (1) 申請により、連絡用名簿・宛名ラベルを提供することができます。
申請書受付後、名簿・宛名ラベルの提供まで1週間～10日間程度かかります。
- (2) 大学の施設を利用・見学できます。
希望される場合は、日程等を決定する前に、同窓会本部へご相談ください。学内でのケータリングも可能です。
- (3) 開催助成費(10,000円)を補助しています。
通信費の一部として、同窓会より補助を行っています。一定の条件がありますので、詳細は、同窓会本部までお問い合わせください。※事前連絡のあった場合のみ支出。
- (4) 同窓会ホームページ「無盡燈」で開催予定と開催報告(写真ならびにコメント)を掲載します。
同窓会報『無盡燈』には、開催報告(写真のみ)を掲載します。

<お問合せ先>

大谷大学同窓会本部(大谷大学校友センター内)

開室時間 9:00～17:00(11:30～12:30 土・日・祝のぞく)

TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

大谷大学同窓会第24回 ホームカミングデー開催について

開催日決定!! 2019年11月9日(土) 午後(12時～受付) 同日、学園祭「紫明祭」開催!

会場 大谷大学内 **会費** 無料 ※ご家族もご参加いただけます。

内容 学内自由散策、恩師との再会、スタンプラリーなど。おたにキッズキャンパスや、職域同窓会も開催予定!

詳細は大谷大学同窓会ホームページ等でご確認ください。

出欠締切 2019年10月10日(木) ご出席の方は、メール・電話・FAXでお申込みください。

ESTABLISHED 1845

紙司 柿本

〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル

TEL.075-211-3481(代) FAX.075-211-5674

紙司 柿本
オンラインショップ



<http://www.kamiji-kakimoto.jp/>

Facebook



紙司柿本FB 検索

<p>文栄堂 (大谷大学 学内書店) 〒604-0915 京都市中京区寺町通二条上ル 電話 075-211-3481 FAX 075-211-5674 Email bunsei@otani.ac.jp</p>	<p>延保知道 著 定価 各一、八〇〇円十税 延保知道 著 定価 三、〇〇〇円十税</p> <p>講義 浄土論註 第五巻</p> <p>講義 浄土論註 第一巻～第四巻</p> <p>教行信証 真仏土卷聴記 I・II</p> <p>教行信証 証卷聴記 I・II・III</p> <p>安田理深 著 定価 各五、六三二円十税</p> <p>安田理深 著 定価 各六、〇〇〇円十税</p>	<p>安田理深選集 (在庫分)</p> <table border="1"> <tr> <td>別巻</td> <td>補巻</td> <td>第一巻</td> <td>第二巻</td> <td>第三巻</td> <td>第四巻</td> <td>第五巻</td> <td>第六巻</td> <td>第七巻</td> <td>第八巻</td> <td>第九巻</td> <td>第十巻</td> <td>第十一巻</td> <td>第十二巻</td> <td>第十三巻</td> <td>第十四巻</td> <td>第十五巻</td> <td>第十六巻</td> <td>第十七巻</td> <td>第十八巻</td> <td>第十九巻</td> <td>第二十巻</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> <td>55</td> </tr> </table>	別巻	補巻	第一巻	第二巻	第三巻	第四巻	第五巻	第六巻	第七巻	第八巻	第九巻	第十巻	第十一巻	第十二巻	第十三巻	第十四巻	第十五巻	第十六巻	第十七巻	第十八巻	第十九巻	第二十巻	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
別巻	補巻	第一巻	第二巻	第三巻	第四巻	第五巻	第六巻	第七巻	第八巻	第九巻	第十巻	第十一巻	第十二巻	第十三巻	第十四巻	第十五巻	第十六巻	第十七巻	第十八巻	第十九巻	第二十巻																																																	
4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1																																																
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55																																																

goods

大谷大学オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学内Yショップまで、ご連絡ください。
 地方発送等も承ります(送料別 ※ハッ橋、三笠は2万円(税込)以上で送料無料!)

- ハッ橋詰め合わせ
 (16パック・48枚入・大箱)
 1,080円(税込)
 (賞味期限:約4ヶ月)



- オリジナル珈琲(10袋入)
 1,080円(税込)
 (賞味期限:約1年)



- ハッ橋詰め合わせ
 (6パック・1枚入・小箱)
 270円(税込)
 (賞味期限:約4ヶ月)



- 瓦煎餅(6パック・18枚入)
 860円(税込)
 (賞味期限:約3ヶ月)



- 三笠
 (粒あん3個・抹茶あん2個入)
 1,080円(税込)
 (賞味期限:約2週間)



- オリジナルピンバッジ
 800円(税込)



Yショップ 営業日:授業期間中の8:00~18:00(※土・日・祝を除く)
 〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学内 TEL 075-432-7277(直通) E-mail aim2341@aimservices.co.jp

goods

同窓会オリジナルグッズ

購入を希望される方は、大谷大学同窓会本部まで、電話、E-mail、FAX又は郵送にてお申込みください。
 地方発送等も承ります(送料別)。

- オリジナル名刺入れ
 定価 3,000円
 →旧大学ロゴ使用のため、
期間限定 300円
 (送料別/2019.11.28まで)



- オリジナルブックカバー
 定価 3,000円
 →旧大学ロゴ使用のため、
期間限定 300円
 (送料別/2019.11.28まで)



- その他グッズ(オリジナル念珠等)もあります。
 同窓会ホームページ「無盡燈」をご確認ください。
http://www.mujiinto-otani.org/use_facilities/index.html



大谷大学同窓会本部 〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
 TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-mail kouyu@sec.otani.ac.jp

goods

ミュージアムグッズ

博物館が所蔵している貴重な資料をデザインしたグッズを販売しています。各種行事等にご利用ください。
 地方発送等も承ります(送料別)。下記以外にもグッズの種類は多数ございます。
 詳細は大学ホームページで確認ください。http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

- クリアファイル
 左より:貝葉包布、延寿命除苦観音菩薩像(敦煌画模本)、
 燈指因縁経(神護寺経)、尋源館をデザインに使用
 1枚 150円(4種類お買い上げで500円)



- トートバッグ
 40cm×30cm×8cm
 (中国古印をデザイン)
 1個 1,500円



- ミニタオルハンカチ
 打敷をデザインに使用 1枚 400円
 (2枚以上お買い上げで、2枚目から350円)
 プレゼント包装にできます
 (ケース 1枚 50円)



- ミニ便箋
 貝葉資料を包装していた
 更紗よりデザイン
 赤・青 各色
 1冊 350円



大谷大学博物館 〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483

同窓会活動報告

Alumni Activity Report

最新情報はこちらをチェック！

大谷大学同窓会



◆ 2018年度「卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」を開催しました！

2019年3月15日(金)に2018年度「卒業証書・学位記授与式」が挙行され、式典終了後の16時30分よりグランドプリンスホテル京都において、「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」を開催しました。2019年度、同窓会は約700名の新会員を迎えました！

木越康学長、石橋義秀同窓会会長の祝辞の後、卒業・修了生代表の松尾和朗さん(文学部教育・心理学科卒業)の乾杯発声により祝宴が始まりました。

会の終盤では、短期大学部幼児教育保育科卒業生による合唱や、卒業・修了生有志による寮歌を披露していただき、祝賀会は大変盛り上がりを見せました。

学生生活も最後となるこの日、一時を惜しむかのように和やかな雰囲気の中、恩師そして友だちとの語らいが続けられました。



◆ 2018年度同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行う

2018年度「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」において、同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」の表彰式を行いました。

この「菩提樹賞」は、卒業・修了生のうち、在学期間中に学術・文化・スポーツ・ボランティア活動などの分野で顕著な成績や多大な成果を収め、大谷大学の発展に貢献した学生又は課外活動団体を表彰し、学生生活の充実に資することを願って同窓会より贈るものです。

2018年度は、以下の3名が表彰されました。今後、みなさんが一層活躍されることを期待しています！

〈文化分野〉 中村 祥子 さん(文学部人文情報学科卒業)

2017年度学生デザインコンペ「THE COMPE きものと帯」のきものジャンルにおいて、「夏の灯り(なつのかかり)」と題した作品で優秀賞「公益社団法人京都デザイン協会理事長賞」を受賞されました。

〈スポーツ分野〉 佐々木 健 さん(文学部真宗学科卒業)

スキー競技部に4年間所属し、2016年から3年連続でスキー競技の奈良県代表として冬季国民体育大会に出場され、またインターカレッジ(全日本学生スキー選手権大会)等においても優勝するなど優秀な成績を収めてこられました。

〈スポーツ分野〉 佐々木壮順 さん(文学部真宗学科卒業)

第1学年次よりアーチェリー競技において、石川県の選手権大会や県民体育大会等で第1位となるなど優秀な成績を収め、県の代表選手として国民体育大会にも出場されました。



◆ 2019年度大谷大学フェア・

大谷大学公開講演会開催！

2019年度も、大谷大学フェアならびに大谷大学公開講演会(旧 夏季八十講)を開催します。詳細は、各ホームページでご確認ください。

●大谷大学フェア(北海道)
2019年10月20日(日)
札幌国際ビル(北海道札幌市)
<公開シンポジウム開催>

●大谷大学フェア(近畿)
2019年11月30日(土)
草津商工会議所(滋賀県草津市)
<公開シンポジウム開催>

●大谷大学公開講演会(旧 夏季八十講)
2019年7月から9月まで、
全国約80カ所で開催。



●フェア詳細
→大谷大学HP

●公開講演会詳細
→大谷大学同窓会HP

● 2019年度 大谷大学公開講演会 開催一覧
統一テーマ「人が育つということ」

支部名	開催日程	講師	支部名	開催日程	講師
函館	7月27日(土)	学長 木越 康	岐阜	9月5日(休)	准教授 采肇 晃
小樽	7月25日(休)	学長 木越 康	郡上	8月26日(月)	名誉教授 草野 顕之
砂川	7月4日(休)	名誉教授 石橋 義秀	飛騨	8月3日(土)	教授 加来 雄之
北の国			静岡県	8月24日(土)	教授 志藤 修史
旭川	7月3日(休)	教授 一楽 真	三為会	8月26日(月)	准教授 中野加奈子
名寄			尾張学友会	9月4日(休)	准教授 采肇 晃
室蘭	7月26日(金)	学長 木越 康	三重	8月29日(休)	教授 一楽 真
深川	7月4日(休)	教授 一楽 真	湖東	8月31日(土)	講師 コウエイマイケルJ
十勝	7月3日(休)	名誉教授 石橋 義秀	湖南	8月31日(土)	教授 滝口 直子
網走	7月1日(月)	名誉教授 佐賀枝夏文	湖西	9月1日(日)	講師 西本 祐暲
紋別	9月2日(月)	教授 山本 和彦	長浜	8月31日(土)	名誉教授 佐賀枝夏文
釧根	7月2日(火)	名誉教授 佐賀枝夏文	京都	9月16日(月)	名誉教授 佐賀枝夏文
青森	9月10日(火)	教授 加来 雄之	丹但	9月4日(休)	教授 箕浦 暲雄
岩手	8月26日(月)	学長 木越 康	大阪北		
宮城	9月10日(火)	教授 一楽 真	大阪市	9月13日(金)	講師 コウエイマイケルJ
秋田	8月27日(火)	学長 木越 康	大阪南		
山形	9月9日(月)	教授 加来 雄之	播磨	9月4日(休)	教授 浅見直一郎
福島県	9月28日(土)	教授 平野 寿則	奈良	8月23日(金)	教授 山本 和彦
茨城	8月29日(休)	講師 西本 祐暲	和歌山	8月25日(日)	教授 山下 憲昭
栃木	7月20日(土)	学長 木越 康	鳥取	9月3日(火)	准教授 藤原 正寿
群馬	7月19日(金)	学長 木越 康	島根	9月4日(休)	准教授 藤原 正寿
埼玉	9月7日(土)	講師 コウエイマイケルJ	岡山	8月26日(月)	講師 西本 祐暲
千葉	9月1日(日)	教授 山本 和彦	福山	9月7日(土)	教授 三木 彰円
東京	8月5日(月)	教授 宮崎 健司	広島	8月29日(休)	教授 井上 尚実
神奈川	8月3日(土)	教授 織田 顕祐	山口	9月15日(日)	准教授 藤原 正寿
三条	7月19日(金)	教授 山下 憲昭	四国	9月2日(月)	教授 箕浦 暲雄
上越	9月5日(休)	准教授 山田 恵文	福岡	9月7日(土)	名誉教授 佐賀枝夏文
富山	8月23日(金)	教授 村山 保史	久留米	9月6日(金)	名誉教授 佐賀枝夏文
高岡	8月22日(休)	教授 村山 保史	北九州	8月29日(休)	名誉教授 石橋 義秀
金沢	8月22日(休)	教授 井上 尚実	佐賀	8月29日(休)	教授 東館 紹見
能登	8月23日(金)	教授 井上 尚実	長崎	8月30日(金)	教授 東館 紹見
小松	8月21日(水)	教授 井上 尚実	熊本	8月23日(金)	准教授 新田 智通
大聖寺	8月20日(火)	准教授 藤元 雅文	大分	9月5日(休)	名誉教授 佐賀枝夏文
福井	9月12日(木)	教授 三木 彰円	宮崎	8月28日(休)	名誉教授 石橋 義秀
山梨	9月8日(日)	教授 谷口奈青理	鹿児島	8月22日(休)	准教授 新田 智通
信濃学友会	9月4日(休)	准教授 山田 恵文	(沖縄)	9月1日(日)	教授 福島 栄寿
大垣	8月21日(休)	准教授 藤元 雅文			

◆ 2019年度同窓会総会開催(報告)

2019年5月16日(木)午後1時30分より、大谷大学博綜館第1会議室において、2019年度の同窓会総会が開催され、以下の議題が承認されました。

- 議 題 (1) 2018年度事業報告及び収支決算報告
*本部キャンパス総合整備・新教室棟建築資金募金についての実績報告がなされました。
- (2) 役員の変更について(右記、2019年度役員一覧参照)
- (3) 2019年度事業計画及び収支予算(案)
*「大谷大学・大谷大学同窓会 全国縦断夏季八十講」から「大谷大学公開講演会」への名称変更が承認されました。
*会報『無盡燈』144号の発行時期を例年の9月から6月に変更することが承認されました。
- 協議事項 (1) 今後の同窓会活動について
- 報告事項 (1) 大谷大学同窓会慶弔並びに同期会OB・OG会等開催助成費に関する内規の一部改正について
- (2) 特定非営利活動法人尋源舎の活動について
- (3) その他

◆ 2019年度役員一覧

会 長	石橋 義秀	理 事	藤原 憲
副会長	柴田 達也	理 事	村上 秀磨
副会長	吉田 法純	理 事	和田 一丸
理事長	一楽 真	監 事	長谷岡英信
常務理事	井上 恵二	監 事	藤坂 初裕
常務理事	高木 文善	顧 問	木越 康
常務理事	速水 馨	常務理事	宮崎 健司
理 事	奥村 豊	常務理事	岡本 学
理 事	加藤 隆昭	常務理事	井上 尚実
理 事	菅原 信顕	常務理事	采肇 晃
理 事	竹園 関	常務理事	山田 恵文
理 事	難波 明則	常務理事	中島 弘喜
理 事	原 直樹	理 事	東館 紹見

2018 年度大谷大学同窓会本部収支決算書			
【収入の部】		【支出の部】	
科目	決算額	科目	決算額
1. 前年度繰越金	6,636,479	1. 事業費	11,125,889
2. 会費	21,843,000	本部事業費	4,396,668
会費(1)	783,000	支部事業助成費	3,474,750
会費(2)	21,060,000	同期会・OB会等開催助成費	430,000
3. 入会金	3,510,000	学生会助成費	500,000
4. 寄付金	488,000	新入会員歓迎費	2,324,471
5. 同窓会基金取崩収入	1,500,000	2. 刊行費	2,561,994
6. 雑収入	891,804	無盡燈刊行費	2,149,370
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	412,624
合計	59,869,283	3. 事務費	3,567,445
		本部事務局費	32,739
		活動費	380,000
		通信費	3,154,706
		4. 旅費	5,976,846
		5. 会議費	1,202,313
		6. 委託費	1,465,505
		7. 雑費	168,896
		8. 同窓会基金繰入支出	72,271
		9. 同窓会活性化準備金	5,288,202
		10. 同窓会運用資金繰入支出	2,500,000
		11. 予備費	0
		合計	56,429,361

2019 年度大谷大学同窓会本部収支予算書			
【収入の部】		【支出の部】	
科目	予算額	科目	予算額
1. 前年度繰越金	3,439,922	1. 事業費	11,420,000
2. 会費	21,600,000	本部事業費	4,460,000
会費(1)	600,000	支部事業助成費	3,610,000
会費(2)	21,000,000	同期会・OB会等開催助成費	450,000
3. 入会金	3,500,000	学生会助成費	200,000
4. 寄付金	500,000	新入会員歓迎費	2,700,000
5. 同窓会基金取崩収入	0	2. 刊行費	2,394,000
6. 雑収入	760,078	無盡燈刊行費	1,860,000
7. 同窓会運用資金	25,000,000	印刷製本費	534,000
合計	54,800,000	3. 事務費	4,056,000
		本部事務局費	42,000
		活動費	380,000
		通信費	3,634,000
		4. 旅費	6,190,000
		5. 会議費	1,770,000
		6. 委託費	1,780,000
		7. 雑費	248,000
		8. 同窓会基金繰入支出	72,000
		9. 同窓会活性化準備金	1,500,000
		10. 同窓会運用資金繰入支出	25,000,000
		11. 予備費	370,000
		合計	54,800,000

収入の部－支出の部 = 3,439,922 (次年度繰越金)

同窓会費の納入について(協力ご依頼)

同窓会は、同窓の皆さまにご納入いただく「**同窓会費(終身会費と年会費)**」と「**寄付金**」を活動資金として事業を行っています。同窓会活動にご理解とご支援を賜り、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

<会員区分について>

卒業年度により「会員区分」が異なります。ご自身の会員区分をご確認いただき、「同窓会費(終身会費と年会費)」または「寄付金」のご納入をお願いいたします。

なお、同窓会報『無盡燈』の宛名ラベルに所属の会員区分が記載されています。

会員区分	ご依頼内容
一般会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会員」ではない方	同封の振込取扱票(振込手数料無料)を使用し、以下の【A】【B】のいずれかの方法により、会費納入をお願いいたします。 【A】毎年、「年会費 3,000円」を納入する。 【B】「終身会費 30,000円」を納入し、終身会員に変更する。 振込取扱票を使用されない場合は、以下の口座に振込をお願いいたします。 <同窓会費専用 振替口座(ゆうちょ銀行)> 口座番号 01020-9-20542 加入者名 大谷大学同窓会本部
終身会員 ①1990年度以前の卒業・修了生のうち、「終身会費 30,000円」を納入した方 ②1991年度以降の卒業・修了生のうち、卒業・修了年次の学費納入時、「終身会費30,000円」を納入した方	同封の振込取扱票(振込手数料無料)をご利用いただき、寄付金の納入に、ご協力をお願いいたします。

<お問い合わせ先> 大谷大学同窓会本部 京都市北区小山上総町(大谷大学校友センター内)
 TEL 075-411-8124 FAX 075-411-8157 E-Mail kouyu@sec.otani.ac.jp

宴会鍋料理

天寅

TENTORA

2時間飲み放題コース3000円～

5名様～100名様までご利用頂けます

京都市左京区田中中大久保町40-2
 (叡山電鉄元田中駅下車すぐ)
 TEL 075-781-3520
 FAX 075-721-2373

(完全予約制)

東大路通
 至室ヶ池
 至出町柳
 大天龍さん

「大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築資金」募金への御礼

同窓会会員諸氏におかれましては、常に母校のためにご支援をたまわり、感謝申し上げます。

会報『無盡燈』^{きようもんかん}慶聞館竣工記念特別号(2018年6月発行)でご案内しましたが、新教室棟「慶聞館」が2018年3月に竣工し、キャンパスは一新しました。

また、2018年4月から大谷大学は、文学部に加えて社会学部・教育学部が開設され、順調にスタートしました。学生たちはすばらしい環境のもとでいきいきと学習に励んでいます。

4年前の2015年度同窓会総会において、「大谷大学キャンパス総合整備・新教室棟建築資金」募金として、同窓会としての目標額を2億円と設定して以降、各支部長を中心に募金活動を行ってまいりました。同窓会会員の皆様のご支援により、2019年3月の募金期間終了までに、目標額に対して約95%の建築資金を賜りました(¥189,076,166 <2019年4月末時点>)。ご支援をいただきました同窓会員の皆様方に、心から厚く御礼申し上げます。

大谷大学は、「仏教を基盤として立脚地を問う」学びを目指しており、今後、学び育っていく後輩たちへは、開学以来大切にしてきた仏教精神に基づく人間教育をより推進して参ります。今後ともよろしくご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2019年6月 大谷大学同窓会長 石橋 義秀

※キャンパス総合整備・新教室棟建築資金としてご寄付いただいた方のお名前については、別途寄付者名簿にてお知らせいたします。

教育振興資金寄付者 (敬称略)

(2018年8月1日～2019年3月31日)

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るため、「教育振興資金事務局」を設置し、募金活動を行っています。

2018年8月1日から2019年3月31日までの間に、ご寄付をいただきました方々は次のとおりです。ご寄付いただいた資金は、教育・研究の充実を図るための環境整備に充ててまいります。今後とも、ご支援賜りますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

2018年8月1日～2019年3月31日 寄付者総数 53件
寄付金総額 3,510,000円

個人	青藤 忍 (愛知県)	飯田 政一 (滋賀県)	加賀手良雄 (愛知県)	門脇さつき (島根県)
	佐藤 智水 (福岡県)	秀熊 俊彦 (滋賀県)	村林 勉 (栃木県)	森元 隆雄 (山口県)
	山下 良之 (京都府)	吉原 敏夫 (京都府)	稲垣 晃映 (富山県)	大森 昌光 (秋田県)
	木曾 順彦 (石川県)	久木野裕一 (大阪府)	武田 真 (新潟県)	徳山 隆秀 (新潟県)
	菱田 隆 (大阪府)	匿名 23件		

法人・団体	宗教法人 常福寺 八田 裕生 (東京都)	
	宗教法人 浄善寺 高尾 和人 (新潟県)	
	有限会社 石間企画事務所 代表取締役 石間 裕 (東京都)	
	キノビクス株式会社 代表取締役 齋藤 隆夫 (滋賀県)	
	株式会社 喜楽研 代表取締役 岸本 菜穂子 (京都府)	
	株式会社 丹後乳販 代表取締役 井上 泰典 (京都府)	
	吉村建設工業株式会社 代表取締役 吉村 良一 (京都府)	匿名 6件

※本寄付は学校法人真宗大谷学園に対する寄付であり、税法上の優遇措置を受けることができます。

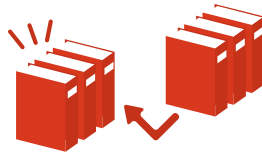
【寄付のお申し込み／お問い合わせ先】

大谷大学教育振興資金事務局 京都市北区小山上総町 (大谷大学校友センター内) TEL 075-411-8124

OTANI古本Project

ヒロガル×ツナガル 学生支援

OTANI UNIVERSITY USED BOOK DONATIONS



このプロジェクトは、読み終えた本、不要になった本(DVD・CD・ゲームを含む)を寄付することで、寄付された書籍は、社会へ還元され、いただいた寄付金は大谷大学在学生在が選ぶ大学図書(学生選書プロジェクト)の本の購入費用等となる寄付事業です。古本は、郵送または大学図書館設置の回収ボックスで回収可能です。この機会にぜひ、「OTANI古本Project」にご参加ください。

2018年6月から2019年3月までに18名の方から、1,114冊(23,163円分)の本をお送りいただきました。誠にありがとうございます。引き続き、ご協力をよろしくお願いいたします。

手続きの方法は？
 ①書籍をダンボールに入れる。
 ②電話(バリューブックス ☎0120-826-292)かWEBで集荷を依頼する。(※5冊以上であれば送料無料です。)

どのような仕組みですか？

以下の本は取り扱えませんのでご了承ください。



- ISBNのない本
 - 百科辞典 ● コンビニコミック
 - 個人出版の本 ● マンガ雑誌 ● 一般雑誌
- ※上記の本が混入していても、費用の負担などは生じません。

詳しくは **WEB**をご覧ください。

お問合せ先 大谷大学教育振興資金事務局(大谷大学校友センター内)
 TEL 075-411-8124(平日9:00~17:00)

お申込みに関してのご注意
 買取額は市場価値等を考慮して(株)バリューブックスにて査定されます。買取額は需要と供給によって決まるため、ご自身が大切にされている本であっても、残念ながら低額となることや、値段がつかないこともございます。お申込みの際は、その点をご理解くださいますようお願いいたします。

同窓生のみなさまへ

／ 卒業後も、大学で利用できるサービスがあります。／
卒業後も大学を利用しよう！

図書館・博物館のご利用

同窓生は、大谷大学の図書館、博物館(特別展無料)を利用することができます。ただし、図書館の利用には、利用証申請手続きが必要です。図書館の利用証申請手続きについては、大学ホームページをご確認ください。

ご住所の変更連絡

同窓会本部では、同窓会員の住所・氏名を管理しています。会報誌、同期会等各種郵送物の宛先となりますので、氏名・住所に変更がある場合は、同窓会本部へご連絡または、以下のメールフォームをご利用ください。

大谷大学ホームページ 会員の住所変更
<http://www.otani.ac.jp/kouyuu/nab3mq000005lgd2.html>

同期会、OB・OG会の開催について

詳細は、P.12をご確認ください。

各種証明書の申込み

証明書等の発行については、お電話または窓口で申し込むことができます。発行には手数料が必要となります。詳細は大谷ホームページをご確認ください。

※卒業生が取得できる証明書のページをご確認ください。



ご結婚のお知らせ

同窓会員がご結婚される際には、同窓会より祝電をお送りします。また、同窓会報『無盡燈』にてご結婚のご報告させていただきますので同窓会本部(TEL 075-411-8124)へご一報ください。

大谷大学内で仏前結婚式

大谷大学の尋源館2階にある尋源講堂で、仏前結婚式を行うことができます。尋源館は登録有形文化財として登録されています。思い出の大学での結婚式を検討される際は相談ください。



▶ 仏前結婚式の問合せ先
 大谷大学総務課 TEL 075-411-8163

同窓会地域支部のご案内

大谷大学同窓会は、大谷大学・大谷大学短期大学部の卒業生や教職員で構成された、会員数約38,000人の組織です。同窓会報『無盡燈』では、各分野で活躍する同窓会員の紹介や母校の近況をお届けします。会報を通じて、さまざまな分野で活躍されるみなさんにつながり、ともに活動できることを期待しています。また、同窓会は、全国に約80の地域支部を構成し、皆さんも卒業と同時に支部に所属しています。地域支部では毎年7月～9月に、大谷大学と協働して、大谷大学の公開講演会を開催しています。大谷大学の教員が講師として全国各地に派遣され、講演会が行われます。卒業・修了後に大学の先生の講演を聴講できる機会であり、また、地元など各地域の大谷大学出身者と交流が持てる貴重な機会です！ぜひ、ご参加ください。(2019年度の開催地域は、P.15をご確認ください。)



部活
紹介

～ 剣道部 ～



皆さん、こんにちは。2019年4月現在剣道部は、第4学年8人、第3学年5人、第2学年1人、マネージャー3人の計17人で活動しています。新入生については入部を待っている状況です。稽古は水・木・金曜日の6限の時間と土曜日の10時から始まります。土曜日には監督の松元宏樹先輩が稽古に来られます。また師範の小笠原正紀先生も稽古をつけてくださいます。2019年の活動予定は、5月19日に第67回関西学生剣道選手権大会、5月25・26日に西日本学生剣道大会、そして8月には大谷大学で全日本仏教系大学剣道大会等が行われます。

私たち剣道部は、2016年で復活して50周年を迎えました。その年のOB・OG会ではたくさんの先輩方が来られて盛大に行うことができました。またその時には八段になられた小笠原師範の祝賀会も行われました。今年6月にもOB・OG会があります。稽古の日程や大会の結果等をブログで発信しています。(http://blog.livedoor.jp/o_tanikendo/)

最後に、先程紹介しました今年8月に大谷大学が会場となり開催される全日本仏教系大学剣道大会についてお伝えします。現在、他の大学と協力して大会の運営等について話を詰めています。この大会の成功に向けて、御協力いただけるとうございます。これからも大谷大学体育会剣道部を宜しくお願い致します。

剣道部 主将 島地 証

2019年度 大谷大学博物館 開館情報

▶ 夏季企画展 近代の東本願寺と北海道－開教と開拓－

会 期：2019年6月9日(日)～7月27日(土)

休 館 日：日曜日・月曜日(※ただし6月9日(日)、7月14日(日)は開館、8月3日(土)、4日(日)は特別開館)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 観 覧 料：無料

▶ 秋季企画展 大谷大学博物館の逸品 重要文化財『選択本願念仏集』

会 期：2019年9月3日(火)～9月21日(土) 休 館 日：日曜日・月曜日(※ただし9月16日(月・祝)は開館)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 観 覧 料：無料

▶ 特 別 展 柳宗悦・棟方志功と真宗－土徳の大地と民芸の美－(仮)

会 期：2019年10月12日(土)～11月28日(木)

休 館 日：日曜日・月曜日、10月22日(火・祝)(※ただし11月10日(日)、24日(日)、25日(月)は開館)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 観 覧 料：500円(同窓生・会友の方は無料)

▶ 冬季企画展 幕末の京都と大火(仮)

会 期：2020年1月7日(火)～2月8日(土) 休 館 日：日曜日・月曜日

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで) 観 覧 料：無料

大谷大学博物館

〒603-8143 京都市北区小山上総町 TEL 075-411-8483
http://www.otani.ac.jp/kyo_kikan/museum/

CAMPUS TOPICS

キャンパストピックス

最新情報はこちらをチェック!



大谷大学

◆ 名誉教授の称号贈られる

このたび、大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、大谷大学の教育上、また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が以下の4名の先生方に贈られました。授与式は2019年4月1日ならびに8日に学長室において行われました。 (総務課)



藤嶽 明信 名誉教授 (真宗学)



ローズ ロバート F. 名誉教授 (仏教学)



番場 寛 名誉教授 (フランス文化、フランス文学)



村瀬 順子 名誉教授 (英文学、英米文化)

◆ U・Iターン就職支援

2018年度は石川県、滋賀県に次ぎ京都府と「就職支援協定」を締結しました。協定締結先府県とはこれまで以上に連携を密に情報提供を行ってまいります。また、U・Iターン就職ガイダンス、道府県の担当者を招いてのU・Iターン就職説明会も開催しています。出身者の少ない地域をカバーするために、2018年度のU・Iターン就職説明会からは厚生労働省の委託事業である「地方人材還流促進事業(LO活プロジェクト)」による相談窓口を開設し対応しました。



各地ともU・Iターンには力を入れており、地方自治体が主催する各地での合同説明会や京都・大阪で行われる行事の案内や地元企業のインターンシップ情報などが届きます。中には各地の就職活動の行事に合わせた交通費補助や無料の帰省バスなどの情報も多数あります。 ↗

◆ 課程博士の学位を授与

2018年度は、博士後期課程修了者3名に「博士(文学)」の学位が授与されました。 (教務課)



拉毛 卓瑪氏 (国際文化)

2018/9/28 学位記授与



森山 結希氏 (仏教学)

2019/3/15 学位記授与



上山 慧氏 (仏教文化)

2019/3/15 学位記授与

◆ 文藝塾の学生が第9回「言の葉大賞®」において受賞



小西 由起さん



小澤 菜美さん

一般社団法人言の葉協会が主催する第9回「言の葉大賞®」の大学生部門において、文学部文学科第1学年の小西由起さんが優秀賞を受賞し、文学部国際文化学科第2学年の小澤菜美さんが入賞されました。

2018年度の「言の葉大賞®」では「『未来の自分』を描いたとき」というテーマで、小学生から社会人まで全国より18,558通もの作品の応募がありました。

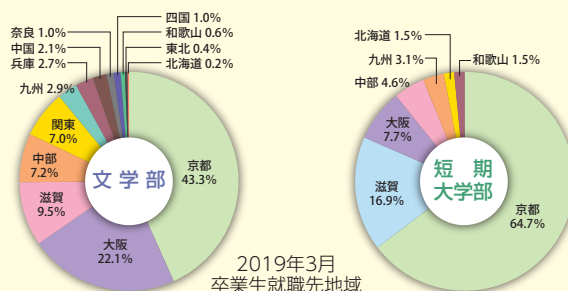
小西さん、小澤さんは、大谷大学が高度で応用的な文章作成能力を身につけることができる場として設置している「文藝塾」での学びが受賞につながったと感じているそうです。 ※学年は受賞時。 (企画課)

言の葉大賞の詳細はこちら ↓ <http://www.kotonoha-taisho.jp/>



✓ こうした機会を利用し各地の優良企業を見つけてほしいと思います。京都から「ふるさと」の良いところを再発見してほしいと考え、支援しています。

(キャリアセンター)



◆ 2018年度大谷大学教育後援会「文芸奨励賞」

大谷大学教育後援会(在学生の保護者による団体)が学生支援事業の一環として在学生を対象に文芸作品を募集し、「言葉による表現意欲を奨励すること」を目的に2006年度に創設された賞です。2018年度のテーマは「ここにある"Real"」。このテーマのもと198編の応募があり、16名が入賞しました。

(学生支援課)

文芸奨励賞の受賞作品はこちら

大谷大学文芸奨励賞



◆ 人事情報

(2018年9月1日～2019年4月30日)

執行部の交代

[研究・国際交流担当副学長]

浦山あゆみ

[入学センター長]

中川 眞二 (再任)

2019年4月1日付 (各通)

館長等の交代

[真宗総合研究所長]

浦山あゆみ

2019年4月1日付

定年退職

[教育職員]

荒瀬 克己 (教授/文学部)

市川 郁子 (教授/教育学部)

朴 一功 (教授/文学部)

番場 寛 (教授/文学部)

藤嶽 明信 (教授/文学部)

村瀬 順子 (教授/文学部)

ローズ ロバート F. (教授/文学部)

上田 敏樹 (准教授/文学部)

[事務職員]

今村 節子 (教育研究支援部)

中村 雅亮 (学生支援部)

曲淵 訓和 (総務部)

目賀田敦子 (総務部)

2019年3月31日付 (各通)

契約期間満了による退職

[教育職員]

下道 省三 (特別任用教授/短期大学部)

松井 玲子 (任期制教授/短期大学部)

東 真行 (任期制助教/文学部)

川口 淳 (任期制助教/文学部)

岸野 亮示 (任期制助教/文学部)

駒井 匠 (任期制助教/文学部)

塚島 真実 (任期制助教/文学部)

根無 一行 (任期制助教/文学部)

森 類臣 (任期制助教/文学部)

[事務系嘱託]

宇野真由美 (総務部)

熊谷亜雅紗 (学生支援部)

竹田裕衣子 (学生支援部)

田端 彩子 (教育研究支援部)

常本 奈那 (学生支援部)

橋本 佳奈 (学生支援部)

横原みちほ (総務部)

[校医]

戸城えりこ

山内 正美

[寮監]

柏樹 貴弘 (貫練学寮)

佐々木えみ (自灯学寮)

[学習支援主任アドバイザー]

西尾 浩二

[学習支援アドバイザー]

竹花 洋佑

松下 俊英

渡邊 温子

[地域連携アドバイザー]

森本 純代

[真宗総合研究所東京分室長]

池上 哲司

[PD 研究員 (真宗総合研究所東京分室)]

稲葉 維摩

藤原 智裕

松澤 樹

[PD 学芸員]

門井 慶介

2019年3月31日付 (各通)

依願退職

[事務系嘱託]

天山 信楽 (教育研究支援部)

2018年9月30日付

小木野暁子 (教育研究支援部)

2018年10月31日付

竹村なつえ (企画・入試部)

2019年4月30日付

新規採用

[教育職員]

西川 幸余 (准教授/文学部)

西尾 浩二 (講師/文学部)

荒瀬 克己 (特別契約教授/文学部)

市川 郁子 (特別契約教授/教育学部)

松井 玲子 (特別契約教授/短期大学部)

麻生 陽子 (任期制講師/文学部)

井上 裕樹 (任期制講師/短期大学部)

青木 佑介 (任期制助教/文学部)

浦井 聡 (任期制助教/文学部)

鎌田 智恵 (任期制助教/文学部)

高井 龍 (任期制助教/文学部)

斐 始美 (任期制助教/文学部)

山本 春奈 (任期制助教/文学部)

[事務職員]

工藤 早紀 (企画・入試部)

近藤 優衣 (学生支援部)

篠塚 瑞希 (教育研究支援部)

田丸由希子 (総務部)

津田 尚依 (総務部)

松尾充一朗 (企画・入試部)

丸尾 大貴 (学生支援部)

[事務系嘱託]

石橋 鮎 (教育研究支援部)

小倉 朋子 (学生支援部)

片山 理沙 (学生支援部)

加納 瑠実 (学生支援部)

窪 浩子 (総務部)

近藤 実咲 (学生支援部)

塩見 優樹 (学生支援部)

内藤佑美花 (教育研究支援部)

中島 香代 (学生支援部)

中村かおり (教育研究支援部)

能田 桂 (教育研究支援部)

[校医]

秋篠 雄哉

山口 智美

[寮監]

本多 正弥 (貫練学寮)

三村 翔子 (自灯学寮)

[学習支援主任アドバイザー]

竹花 洋佑

[学習支援アドバイザー]

田鍋 良臣

田原 理恵

寺井 伸子

根無 一行

花房ともえ

平野和歌子

萬田 恵子

森 類臣

[地域連携アドバイザー]

山田 大地

[PD 研究員 (真宗総合研究所東京分室)]

青柳 英司

大澤 絢子

鍾 宜錡

西村 晶絵

2019年4月1日付 (各通)

昇格

[教授]

井上 摩紀 (教育学部)

武田 和哉 (文学部)

藤田 義孝 (文学部)

松浦 典弘 (文学部)

箕浦 暁雄 (文学部)

[准教授]

高橋 真 (社会学部)

藤元 雅文 (文学部)

2019年4月1日付 (各通)



北西 弘先生を偲んで

大谷大学名誉教授 草野 顕之

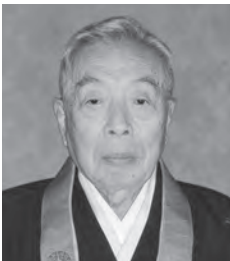
2019年1月25日、北西弘先生が逝去された。93歳のご高齢であった。北西先生は1925年9月21日に、石川県河北郡内灘村(現内灘町)光明寺に誕生された。本学文学部を卒業後、1952年に研究科を修了されると、助手として大谷大学に奉職され、助教授を経て1971年に教授となられた。ご専門は日本仏教史、特に一向一揆研究にあり、その成果を1976年に『一向一揆の研究』にまとめられ、文学博士の学位を得られている。

一方、大谷大学の運営にも尽力され、図書館長、学監・文学部長、大学院文学研究科長などの要職を歴任され、1986年には22代学長に就任されてもいる。

実に研究意欲の旺盛な先生であり、博士論文刊行後も『覚信尼の生涯』や『蓮如上人筆跡の研究』といった著書を発表される一方で、真宗史料の公刊にも力を注がれ、『能登阿岸本誓寺文書』『金沢専光寺文書』など、各地の真宗寺院に遺された古文書を書籍として刊行された。

私が北西ゼミに所属したのは学部3回生の1974年であった。当時、先生は石川県の自治体史編纂に数多く関わられており、ゼミに所属する学生や院生をその調査に同行されるのが常であった。そこで、先生は真宗寺院調査の方法を指導されたのであるが、こうした経験が、私にとってはその後の研究を進める力となったことに深く感謝している。

調査やゼミ旅行などで、先生と体験した出来事を一々紹介する余裕はないが、そうした折には、殊に先生の優しいお人柄を垣間見ることが出来たことを、実に懐かしく偲んでいる。



高橋 正隆先生を偲んで

大谷大学教授 宮崎 健司

2018年9月7日、高橋正隆先生が89歳で逝去された。高橋先生は、本学文学部を卒業後、国史学研究室助手などをへて、本学図書館に勤務され、図書館の整備と司書課程教育に長らく携われた。1975年からは専任講師に転じ、助教授、教授と昇任され、1995年3月に定年退職されている。教員となっても、従前の仕事を進めながら、1992年の短期大学部国文科の文化学科への改組にあたっては、その中心的な役割を果たされ、文化学科設置を牽引された。

先生のご研究は、東洋学の碩学神田喜一郎先生に師事され、多方面にわたって学識を示されたが、とりわけ和紙文化研究の第一人者として著名であった。滋賀県下の大般若経悉皆調査をはじめ県下の文化財の調査主任として携われ、15年以上もの長きにわたって滋賀県文化財審議委員会委員をつとめられた。また文化財保護など多年にわたる地域文化振興の功績が高く評価され、2005年11月に第30回滋賀県文化賞を、翌年11月には地域文化功労者文部科学大臣表彰をそれぞれ受賞されている。さらにその評価は県下にとどまるものでないのは、宮内庁の依頼により桂離宮保存修理の技術指導を行われたことからもうかがわれる。

先生との思い出としては、滋賀県下の大般若経悉皆調査でご一緒したことや、改組当初の文化学科で、同じ文化史コースの大先輩として、教育、研究など多岐にわたってご指導賜ったことである。先生の姿勢は、真摯かつ峻厳ともいべきもので、指導受ける者は自然と背筋が伸びるようであった。一方で、時に照れたように笑顔を見せられることもあった。高橋正隆先生に賜った御恩を衷心より感謝申し上げつつ、先生の姿勢におよぶべくもないが、さらに教育、研究に精進せねばと思う次第である。



野村 哲也先生を偲んで

大谷大学教授 高井 康弘

野村哲也先生が2016年2月13日に逝去された。1927年5月16日に京都でお生まれになった先生は、1951年に大阪大学理学部物理学科卒業後、高校教諭として勤務されつつ、1963年に京都大学大学院教育学研究科修士課程に進まれた。同博士課程進学後、1966年に高校教諭職を辞し、京都大学教育学部助手となられた。1968年に大阪社会事業短期大学に講師として赴かれ、同助教授、教授を務められた後、1981年に大阪府立大学社会福祉学部教授とられ、1990年に本学に教授として来られた。

ちなみに、私も同年に本学に採用された一人であった。当時、本学は臨時定員増で学生が急増した時期であったが、野村先生は教育研究の中核を担うベテラン・スタッフとして招かれ、1992年には社会学科主任、第二研究室主任を務められた。困難は多々あったはずだが、飄々とこなされている印象であった。1993年に定年退職後も、1998年3月まで特別任用教授として重責を担われた。グレイヘアのダンディなお姿と関西弁、私たち若輩のスタッフにもフランクに接して下さったことを覚えている。

先生のご専門は社会福祉学、家族社会学で、単著『社会福祉調査論』他、学術雑誌『社会問題研究』を中心に多数の論考を発表されている。全日本山岳連盟ヒマラヤ登山隊等で何度も登山の指揮をされ、文部省登山研修所の専門委員等も務められていた。特任教授退任後は、世界各地を旅行した便りを下さっていた。元気なお姿しか記憶に無いのが正直なところである。

()内は最終卒業・修了年度(敬称略)
年月日はご逝去された日付・五十音順

敬弔 ご生前のご功労を偲び、謹んで
哀悼の意を表します。

※同窓会本部 2019年3月31日現在
掌握分

田中 和麿	大学部	(1948)	2012.12.15	山中 宣昭	文学部	(1956)	2018.07.22
武田 清美	短期	(1970)	2015.06.01	曜山 素信	文学部	(1977)	2018.07.22
藤 光永	博士	(1961)	2015.07.20	岩永 良昭	文学部	(1957)	2018.08.01
野村 哲也	会友		2016.02.13	真住 哲	短期	(1967)	2018.08.10
井上依里子	文学部	(1990)	2016.03.09	上条 大音	大専門	(1941)	2018.08.12
松山 常照	文学部	(1963)	2017.07.21	中村 寅雄	短期	(1957)	2018.08.18
橋本 悟	文学部	(1952)	2017.08.24	平野 素耀	文学部	(1966)	2018.08.24
小野塚越山	大学部	(1951)	2017.11.08	上山紀美代	文学部	(1982)	2018.08.30
山背 隆	大学部	(1952)	2018.03.07	澤 昭爾	文学部	(1957)	2018.08.30
島田 敏明	短期	(1968)	2018.04.05	巖水 敏哉	文学部	(1980)	2018.09.05
神谷 覚	短期	(1967)	2018.04.14	高橋 正隆	大学部	(1952)	2018.09.07
細川 彰尊	大学部	(1954)	2018.04.15	毛利 文雄	短期	(1952)	2018.09.09
武宮 雅彦	文学部	(1967)	2018.04.20	藤玉 栄司	文学部	(1988)	2018.09.16
藤田 賢恵	文学部	(1970)	2018.05.05	森 純教	文学部	(1984)	2018.09.16
鈴木 祐之	文学部	(1963)	2018.05.14	竹井 伴子	短期	(1972)	2018.10.05
秦 祐宣	大専門	(1946)	2018.05.22	名越 誓	文学部	(1971)	2018.10.09
小寺真実也	短期	(1953)	2018.05.23	青山 紫明	文学部	(1960)	2018.10.12
森山 仁志	文学部	(1959)	2018.05.23	佐竹 靈鳳	短期	(1957)	2018.10.12
渡辺 智昭	大専門	(1947)	2018.05.29	上野 一成	文学部	(1964)	2018.10.22
藤谷 勝	文学部	(1959)	2018.06.03	岡本 寿丸	大学部	(1947)	2018.10.25
屋敷 武志	文学部	(1963)	2018.06.11	勸山 弘	大学部	(1943)	2018.11.07
道宗 宣明	文学部	(1963)	2018.06.12	高木 昭順	文学部	(1952)	2018.11.11
川那辺 泰	大学部	(1952)	2018.06.20	富沢 慶丸	大学部	(1946)	2018.11.14
外山 恒雄	大学部	(1946)	2018.06.24	千原 隆昭	大専門	(1947)	2018.11.19
市川 円成	大専門	(1947)	2018.06.26	赤松 公明	短期	(1957)	2018.11.20
川尻 文昭	修士	(1968)	2018.06.30	井上 禅	文学部	(1967)	2018.12.14
渡辺 学	文学部	(1961)	2018.07.01	松隈 貞憲	大専門	(1943)	2019.01.10
太田 徳音	大学部	(1951)	2018.07.04	北西 弘	大学部	(1948)	2019.01.25
山内 順紀	短期	(1967)	2018.07.07	菊池 一哲	文学部	(2007)	2019.01.29
安藤 浩城	文学部	(1959)	2018.07.19	阿部 誠介	文学部	(2006)	2019.01.31
館 度	文学部	(1962)	2018.07.19	林田 正法	文学部	(1977)	2019.02.11

ご結婚おめでとうございます

幸せなご家庭を築かれることを念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年度(敬称略) ※同窓会本部 2019年3月31日現在 掌握分 結婚式日順

山屋 拓史 (1998文)	♡	渡辺 直美	深堀 昌隆	♡	佐藤 沙織 (2012文)
藤並 慈慧 (2007修士)	♡	一楽 麻子	井ノ本祐太	♡	岡村名美子 (2014文)
川本 大輔	♡	丸山 美穂 (会友)	田中 正樹	♡	福山麻衣子 (2003文)
打越 和彦 (2009文)	♡	山西 りお (2009文)	山岸 三洋 (2000文)	♡	上田 早苗

※大谷大学尋源講堂での仏前結婚式をお受けしています。お問い合わせは、大谷大学総務課 (TEL 075-411-8163) まで。

仏教の基本は一人の私のより良き生き方にある。常に私におきかえて世の中を見なければいけない。縁起(ものごとの根元の探究—釈尊はその源は無明(無智)とはっきりと説かれている)、無常(常ならん)と四苦八苦の現世を認識し、美しさや喜びを感じることにある。

アーナンダ(阿難)は釈尊の従弟にあたり、また25歳以上若かったと伝えられている。十大弟子の中で「多聞第一」と言われるのは、釈尊の身近でお世話をし、数多くの説法を聴いていたからに他ならない。60歳近くの齢となられた釈尊は身の回りの用事をしてくれる弟子を求められた。多くの仏弟子が申し出たが、若く、従弟にあたるアーナンダに決められた。律儀なアーナンダはその役にあたるに際し、釈尊への布施の折の食事や衣の施しなどは受けないという自身の戒をたて、その後の釈尊と共にされた。釈尊は説法をするのに、同じことでもわかり易くするために対機説法という、人

によって話し方を変えられた。そのためにアーナンダは余りにも多くの対機説法を聴いていたために、悟りの境地、アラハン(阿羅漢)にはなれなかった。アーナンダがアラハンの境地に達したのは、実に釈尊の死後初めての結集(経典編纂会議)の早朝だったという。

アーナンダの晩年や、若年時の出家の動機などはほとんど伝えられていない。晩年にアーナンダは仏法をよりどころにしてくれない人が多く、ガンジス河で入水自殺をしている。以前に桜部建先生は、仏教では自殺を善とも悪とも言わないとおっしゃったことがある。その時は解らなかったが、仏教は全ての縁、縁起によっているのであると思えるようになった。人は少年の頃からの性格や天分は余り変わらない。アーナンダの少年の頃はと自分の中で想像を膨らませて描いた。

畠中 光享(1970年文学部卒業)
日本画家 インド美術研究者

無盡燈リニューアルに当たって

お手にとってくだされば、これまでとの違いにお気づきいただけると思います。同窓会報『無盡燈』は、同窓生、在学生、大学をつなぐ大切な役割をもっています。年1回の発行ではありますが、更なる充実を図ってのリニューアルです。

最も大きな変更点は、同窓生の活躍、支部活動、また在学生や先生方の様子を読んで知っていただけるページを増やしたことです。それにともない同期会開催報告は若干縮小しましたが、詳細についてはホームページでご覧いただけるようにしております。

また、今号の内容が分かるように、表紙に小見出しを掲げました。作品の隣に文字を並べることを快く了承くださった畠中先生には心より御礼申し上げます。

発行の時期については、各支部主催の講演会の案内を同封して発送できることを考えて、6月に発行することにいたしました。これは、昨年度の慶聞館竣工特別号の際にお寄せいただいた支部からの声に応答したいという願いからであります。

皆様からの声をお聞かせ頂ければ有難く存じます。同窓会の活動に対して、ご理解とご賛同をたまわり、これからもご支援のほど宜しくお願いします。

理事長 一楽 真

2019年6月10日発行

発行 大谷大学同窓会本部

編集 『無盡燈』編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内

TEL (075)411-8124 FAX (075)411-8157

振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mu jinto-otani.org/>

E-mail : kouyu@sec.otani.ac.jp

ホームページ「無盡燈」毎月1回更新!

<http://www.mu jinto-otani.org/>

大谷大学同窓会



『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。「維摩経」に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。